

RETURN TO FOREVER

"Returns to Japan Tour 2011"

リターン・トゥ・フォーエヴァー "リターンズ・トゥ・ジャパン・ツアー2011"

チック・コリア、スタンリー・クラーク、そしてレニー・ホワイトの最強トリオに、新たにエレクトリック・ヴァイオリンの第一人者、ジャン・リュック・ポンティと"スウィープ・ピッキングの発案者"にして他の追従を許さないテクニシャン、フランク・キャンバレという奇跡の豪華布陣が集結！
ジャズ史に燦然と輝く伝説のフュージョンバンドが30年ぶりに奇跡の来日!!



スタンリー・クラーク
本年度
グラミー賞
受賞

ジャン・リュック・ポンティ
[ヴァイオリン]

レニー・ホワイト
[ドラム]

チック・コリア
[キーボード]

スタンリー・クラーク
[ベース]

フランク・キャンバレ
[ギター]



2011

9/27 火 PM7:00開演 愛知県芸術劇場大ホール
S ¥10,500 A ¥9,000 (税込)

主催：中京テレビ放送 FM AICHI 共催：読売新聞社 協力：名古屋ブルーノート

お問合せ
お申込み **中京テレビ事業 ☎052-957-3333**

〒460-8613 名古屋市中央区錦3-15-15 CTV錦ビル6F(月~金 AM9:30~PM5:30 / 土・日・祝日休業)

インターネットからでもお申込み頂けます。 <http://cte.jp> 中京テレビ事業

●出演者、プログラム内容等変更になる場合がございます。あらかじめご了承ください。
●未就学児童のご入場はご同伴の場合でもお断り致します。

チケットぴあ (Pコード:136-306) 0570-02-9999
ローソンチケット(Lコード:41951) 0570-084-004
名古屋ブルーノート 052-961-6311
愛知芸術文化センターPG 052-972-0430
栄プレチケ92 (旧三越PG) 052-953-0777
イープラス eplus.jp、セブン-イレブン店頭 他

RETURN TO FOREVER "Returns to Japan Tour 2011"

リターン・トゥ・フォーエヴァー “リターンズ・トゥ・ジャパン・ツアー2011”



伝説的フュージョン・バンド復活、約30年ぶりの来日!

70年代のフュージョン・シーンを爆発させた伝説のスーパー・ユニット「リターン・トゥ・フォーエヴァー」(RTF)の約30年ぶりの来日が決定した。2011年はリーダーのチック・コリアにとっては満70歳(6月12日)となる記念すべき年に当たっており、この1年間、チックは彼の音楽人生最大のテーマとなった「RTF」によるワールド・ツアーに全力を注ぐ計画だ。

コリアは「RTF」のホームページに掲げた告知でも今回のツアーが「単なる人気バンドの再結成ツアーではない。RTFの当初の精神をすべて受け継ぎながら、新たな地平を切り開く試みにも果敢に挑む」と抱負を語っている。

新編成「RTFIV」のメンバーにエレクトリック・ヴァイオリンの第1人者ジャン・リュック・ボンティを迎えて、メンバーを従来の4人から5人編成に拡大したこともその証だ。ボンティは1976年にチック・コリアの「マイ・スパニッシュ・ハート」に参加して、コリアのピアノ、スタンリー・クラークのベースと組んで名演奏<アルマンドのルンバ>を録音したいきさつがあり、今回のツアーではフランク・キャンバレ(ギター)とともに、「RTF」に新生面を付加する重責を担うことになる。

残る顔ぶれは、「RTF」の初期からの不動のメンバーが健在なのが嬉しい。ベースのスタンリー・クラーク

は、今年6月で満60歳の誕生日を迎えるが、今年是最新アルバムでグラミー賞に輝く成果を収めたばかりであり、栄光のキャリアの出発点となった「RTF」でのブレイに対するファンの期待はいやが上にも高まっている。ドラムスのレニー・ホワイトは、マイルス・デイビスの「ピッチェス・ブルー」を振り出しにチック・コリアのバンドでスター・ドラマーの地位を獲得した「RTF」生え抜きの一人。今回は、彼が70年代に作曲した<Sorceress(女魔術師)> (「RTF/浪漫の騎士」に収録)も公演プログラムに加えられる。

今年のワールド・ツアーは「RTF IV~Hymn of the Seventh Galaxy Tour 2011」と名付けられており、名作アルバム「第7銀河の賛歌」を中心にしたものだが、演奏曲はその他全盛時のアルバムからヒットナンバーを中心とした構成になるそうだ。6月から9月中旬にかけてはヨーロッパと米本国で長期ツアーが敢行されるほか9月29日から10月10日にかけての日本公演でワールド・ツアーを締めくくる予定だ。

ちなみに、新編「RTFIV」は、はやくもツアーの前哨戦として、去る2月、オーストラリアのシドニーやメルボルンなどで全6回のコンサートを開いている。2月15日のオペラハウス(シドニー)の公演は、熱狂的なファンに迎えられて、2時間45分というロング・コン

サートになっている。この日は、第1部はホルストの組曲「惑星」からの<火星>で幕が開き、RTFの「第7銀河の賛歌」「浪漫の騎士」「ノー・ミステリー」などからエレクトリック・サウンドを駆使したコリアの<Medieval Overture(中世序曲)>やくセニョール・マウス>をはじめジャン・リュック・ボンティのヒット作<Mirage(蜃気楼)>と新曲<Dream Revelation>などが演奏されている。前半でエレクトリックなサウンドを聴かせた「RTF」は後半第2部では、曲によってはコリアがピアノ、スタンリー・クラークがウッド・ベース、フランク・キャンバレがアコースティック・ギターに持ち替えるなど、アコースティック・ジャズに比重を置き、コリアの最大ヒット作<スペイン~アランフェス協奏曲>をはじめ<浪漫の騎士>、スタンリー・クラークの新曲<ニューヨーク>などを披露したほか、<ノー・ミステリー>に続くアンコールではスタンリー・クラークの不滅のヒット作<スクールデイズ>で締めくくられたという。

「RTF」の誕生から40年、総決算&新たな旅立ちともなる今年の公演は、全ジャズ・ファン待望のステージとなりそうだ。